

菊花きくか
(白居易はくきよい)

一夜いちや 新霜しんそう 瓦かわらに 著ついて 輕かろし

芭蕉ばしょうは 新あらたに 折おれて 敗荷はいかは 傾かたむく

寒かんに 耐たうるは 唯ただ 東籬とうりの 菊きくのみ 有あつて

金粟きんぞくの 花はなは 開ひらいて 曉あかつき 更さらに 清きよし

一夜新霜著瓦輕 芭蕉新折敗荷傾
耐寒唯有東籬菊 金粟花開曉更清

解説 霜が降りた寒気の中に、美しく咲いている菊を詠じた詩。

語釈 ※新霜Ⅱ初霜。※著瓦輕Ⅱうつすらと瓦についている。※敗荷Ⅱ荷は、はす。枯れてやぶれたはすの葉。※東籬菊Ⅱ籬はかきね。※金粟Ⅱ金と米。桂。菊。ここでは菊の意。

通釈 夜があげると、初霜がうつすらと降り、瓦が白くなっていた。この寒さに耐えきれず、芭蕉は折れて、やぶれたはすの葉も傾いてしまった。そうした中で寒気に耐えているのは、東のかきねに咲く菊だけであって、その菊の花は美しく咲いて、この曉の風景をいつそう清らかにしている。